

船舶事故調査報告書

平成22年12月2日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年8月1日（日） 02時35分ごろ
発生場所	千葉県御宿町岩和田港防波堤灯台から真方位097° 300m付近 （概位 北緯35° 10.7′ 東経140° 22.2′）
事故調査の経過	平成22年8月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 ^{たなか} 田中丸、4.96トン 232-7274千葉、個人所有 10.54m (Lr) × 2.85m × 0.72m、FRP ディーゼル機関、242.72kW、昭和56年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 77歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年12月6日 免許証交付日 平成21年5月19日 （平成26年7月3日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	右舷船底部き裂及び破口、機関濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客3人を乗せ、釣り場に向けて岩和田漁港の港口を出航した。 船長は、磁気コンパスで針路を確認しようとしたところ、磁気コンパスの夜間照明用電球が切れていることに気付き、港口を出たところで機関を中立として電球の交換を行った。 船長は、電球の交換を終えたとき、船首が北東方に向いていたので、釣り場に向けて南進しようと右舵をとって発進した直後、平成22年8月1日02時35分ごろ、岩和田漁港東方の浅瀬に乗り揚げた。
気象・海象	気象：天気 霧、風向 南南西、風力 1、視程 200m以下 海象：波高 約2m 特記事項：濃霧注意報
その他の事項	船長は、遊漁船業を約25年営んでいた。 船長を含め地元の漁業者は、濃霧発生時でも海上模様が良好であれば、出航していた。 船長は、ふだんから、航行中はレーダー及びGPSプロッターを起動していたが、出航時は、磁気コンパスのみを使用していた。 本船は、GPSの航跡によれば、機関を中立としてから磁気コンパスの

	電球を交換して航走を再開するまでの間に、南東へ180m、東北東へ80m、北北東へ90m移動していた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、夜間、岩和田漁港の港口外側付近において、漂泊し、機関を中立として磁気コンパスの夜間照明用電球の交換を行ったのち、航行を再開しようとして発進した直後、同港東方の浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、磁気コンパスの照明を出航前に点検していなかったものと考えられる。 船長は、ふだんから、出港時にレーダーやGPSプロッターを使用しておらず、電球交換作業中、これらを使用して船位を確認しなかったこと、及び霧により視界が悪かったことにより、岩和田漁港の東方の浅瀬に流されていることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、霧により視界不良の状況下、本船が、岩和田漁港の港口外側付近において、漂泊して磁気コンパスの夜間照明用電球の交換作業中、船長が、船位を確認せず、また、霧により視界が悪かったため、電球交換作業中に岩和田漁港の東方の浅瀬に流されていることに気付かず、航行を再開しようとして発進した直後、同浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	